

クラス会議実践の手引き



次へ

教育相談課 研究員 倉内貞行

はじめてみませんか？

クラス会議

クラス会議の効果として、次のようなことが期待できます。

- 子どもたちが今以上につながり、学級の結びつきを感じ合えることが期待できます。
- あたたかな雰囲気生まれ、さらに授業での意欲を高めることが期待できます。
- 子どもが自分の頭で考え、解決に向け動き出すきっかけになることが期待できます。
- お互い協力する態度が出てきて、子ども達の孤立の予防が期待できます。

クラス会議を 成功させるには？

- ・指導・助言はいつするの？
- ・司会・書記の指導は？
- ・教室環境の工夫は？
- ・担任のかかわり…

クラス会議の流れは？ ポイントは？

- 1 輪になる
- 2 サンキューリング
- 3 議題の提案
- 4 解決アイデアの収集
- 5 質疑応答
- 6 解決策の決定
- 7 振り返り

○クラス会議って？

- ・アドラー心理学に基づくクラス会議？
- ・クラス会議に期待できることって？

○どんな準備が必要？

○いつ行うの？

- ・朝の会等を利用してショートver.
- ・学級活動を活用してロングver.

目次へ



クラス会議実践の手引き 目次

クラス会議の流れと 指導のポイント

<u>1 クラス会議の全体図 (ショートver. ロングver.)</u>	1・2
<u>2 オリエンテーションは?</u>	3
<u>3 議題の収集のポイントは?</u>	4
<u>4-1 輪になる 目的と指導のポイントは?</u>	5
<u>4-2 コンプリメントの交換 目的と指導のポイントは?</u>	6
<u>4-3 議題の提案 の指導のポイントは?</u>	7
<u>4-4 解決のアイデアを出し合う の指導のポイントは?</u>	8
<u>4-5 解決策を決める の指導のポイントは?</u>	9
<u>4-6 ふりかえり・実践 の指導のポイントは?</u>	10

クラス会議を始める前に

<u>1 どんな準備が必要なの?</u>	1 1
<u>2 だれが、いつ、クラス会議をするの?</u>	1 2

クラス会議の成功の秘訣?

<u>1 教師の指導・助言のタイミングは?</u>	1 3・1 4
<u>2 司会・記録の指導</u>	1 5・1 6
<u>3 集団の意識を高める教室環境</u>	1 7
<u>4 つけたい力を意識した教師のかかわりの視点</u>	1 8
<u>5 つけたい力を意識した教師のかかわりアイデア</u>	1 9

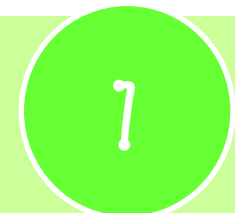
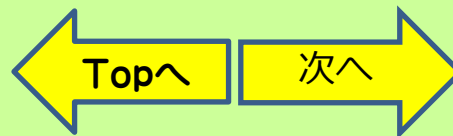
クラス会議とは?

<u>1 今、求められるアドラー心理学の教育論</u>	2 0
<u>2 クラス会議に期待されること</u>	2 1・2 2
<u>3 気軽に継続して行うための2つのクラス会議</u>	2 3

おまけ

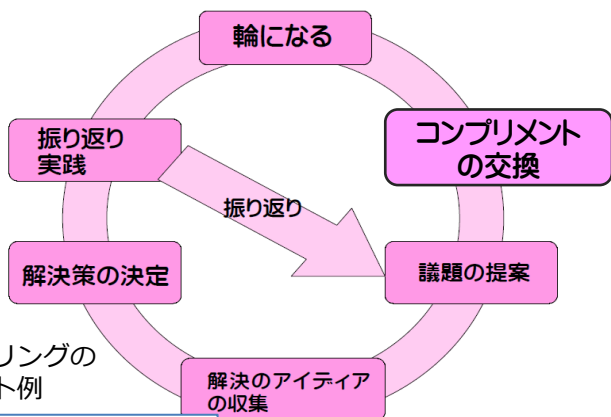
ワークシート例	2 4~3 0
<u>(1) 議題提案用紙</u>	<u>(5) 聞き方のあいうえお</u>
<u>(2) 解決策掲示用紙</u>	<u>(6) コンプリメントの交換ワークシート</u>
<u>(3) 話し合いのルール</u>	<u>(7) クラス会議シナリオ</u>
<u>(4) 思いやりの八箇条</u>	

1 クラス会議の全体図 ショートver.



クラス会議ショートver.で個人の課題をみんなで解決しよう！

簡単に、気軽に繰り返し話し合う中で、自分がどう行動すべきかを学ぶ。



サンキューリングのワークシート例

発言ルール の 掲 示 例

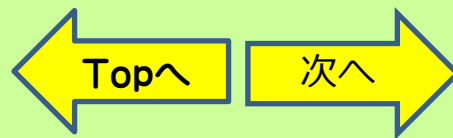
- *ブレインストーミングのお・や・く・そ・く
- 量より質
 - 批判NO!
 - 自由な発言OK!
 - 組み合わせ、コピーOK!!
 - 話し合いを楽しむ!

板書例

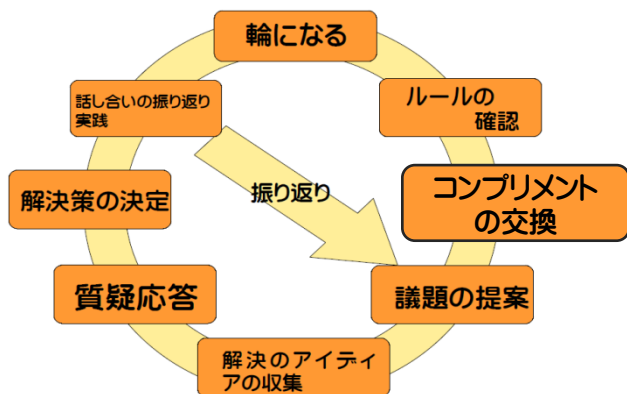
あたたかい集団の雰囲気を感じながら、友だちのために協力する、協力してもらえる感覚を育む。

時配(分)	段階	具体的な内容	指導上の留意点
0	議題収集	○議題箱に個人の課題を提出する。	☆議題が出にくい場合は、日記の記述や普段の生活の観察などから議題になりそうなものを先生が見つけ、伝えることが考えられる。
1	なる輪に	○できるだけ早く、きれいに協力して輪になる。	☆時間を計るなどゲーム性をもたせる。 ☆協力したことなど、よい面を積極的に認める。
5	コンプリメントの交換	○隣に座った友だちに「すごいね」、「ありがとう」と思ったことを発表する。 例 ○〇さんは昨日、係の仕事を一生懸命手伝ってくれました。ありがとうございました	☆バスやヘルプの権利があることを適宜確認させる。 ☆発表の内容発表のしかた、聞き方について認めるなど、子どもにとってのモデルとなる。 ☆話す題材について指定してもよい。
1	議題の提案	○議題と提案理由(困っていることはこんなこと)について提案者が説明する。 ○司会はその議題について協力して話し合ってもらえるか同意を得る。 例 宿題を始める時間が遅くなってしまいます。(議題) 好きなことをやっちゃって朝起きられなくなるのが辛いです。(提案理由)	☆どんなことに困っているか、どうなりたいのかが不明瞭な場合は、明確にするように声かけをする。
6	アイディアの収集	○議題の解決のアイディアを一人ずつ発表していく。 ○トーキングスティックを2周する。 例 見えるところに注意書きを貼る。時間を決めて好きなことをする。親に注意してもらおう。好きなことと宿題を交互にやる。	☆いろいろなアイディアを批判せず認める。 ☆適宜ブレインストーミングの約束を確認させる。
1	解決策	○提案者が解決のアイディアの中から課題解決に有効で実行可能な解決策を選ぶ。 例 好きなことと宿題を交互にやる。	☆解決策の選び方として、選択するだけでなく、結合させるなどの工夫も教える。
1	振り返り	○副司会が今日の話し合いの振り返りをする。	※途中で時間(15分)が経過してしまったら、やめて次回、続きから行う。

1 クラス会議の全体図 ロングver.



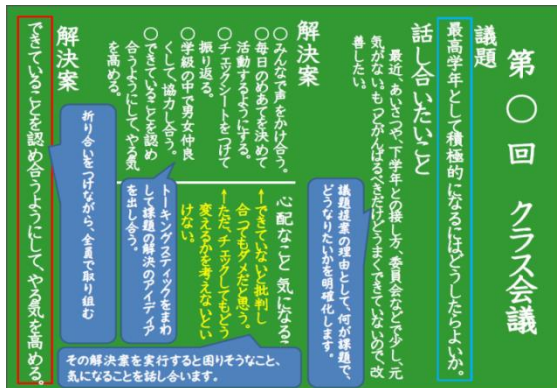
クラス会議ロングver.で集団の課題をみんなで解決しよう！



議題の例

- 自分たちの願いをこめた学級目標を作ろう。
- みんながやる気になれる運動会のスローガンを考えよう。
- 自分たちの生活をよくする係を考えて決めよう。
- そうじの時間に協力しない人がいる。どうしたら、みんな掃除に集中して取り組むことができるだろう。

板書例



実際の学校生活上の課題について、全員参画に挑戦しながら自分たちのアイディアで、よりよい生活を作るという体験をさせ、集団への個人の参画意識を向上させます。

よりよい集団生活に向けて、今自分たちでできることを考え、実行してみる。

時分(分)	段階	具体的な内容	指導上の留意点
0	議題収集	○議題箱に個人の課題を提出する。	☆議題が出にくい場合は、日記の記述や普段の生活の観察などから議題になりそうなものを先生が見つめ、伝えることが考えられる。
8	輪になる ルールの確認 コンプリメントの交換		
5	議題の提案	○集団の課題として出されたものを、提案者が説明する。 ○提案理由について、話し合うとともに、全員の課題として、話し合ってよいか同意を得る。 例・最高学年として、積極性が足りないと感じているのでもっと積極的にになりたい。	☆どんなことに困っているか、どうなりたいたいのかが不明瞭な場合は、明確にするように声がけする。 ※議題によっては事前に知らせておき、話し合いの柱を立てて、周知しておく。
10	アイディアの収集	○議題の解決のアイディアを一人ずつ発表していく。 ○トーキングスティックを2周する。 例・みんなで声をかけ合う。 ・活動のめあてを立てて活動するようにする。 ・学級の中で男女仲良くして協力し合う。 ・できていることを認め合うようにして、やる気を高める。	☆いろいろなアイディアを批判せず認める。 ☆適宜ブレインストーミングの約束を確認させる。 ※話し合いの柱を立てた場合には、「アイディアの収集」と「質疑応答」「解決策決定」を柱ごとに行い、進めていく。 ☆アイディアが出にくい場合は適宜「相談タイム」を設定させる。
5	質疑応答	○この解決策を行うことで、課題解決になるのか、具体的にどのようになるのかを予測し、確認し合う。	☆挙手制とする。
10	解決策決定	○提案者が解決のアイディアの中から課題解決に有効で実行可能な解決策を選ぶ。 例 できていることを認め合うようにして、やる気を高める。	☆解決策の選び方として、選択するだけでなく、結合させるなどの工夫も教える。
2	振り返り	○話し合いの様子、決まった解決策について確認する。	☆話し合いでよかったこと、参画したことなどを認め、勇気づける。

2 オリエンテーションは？

Topへ

次へ

3

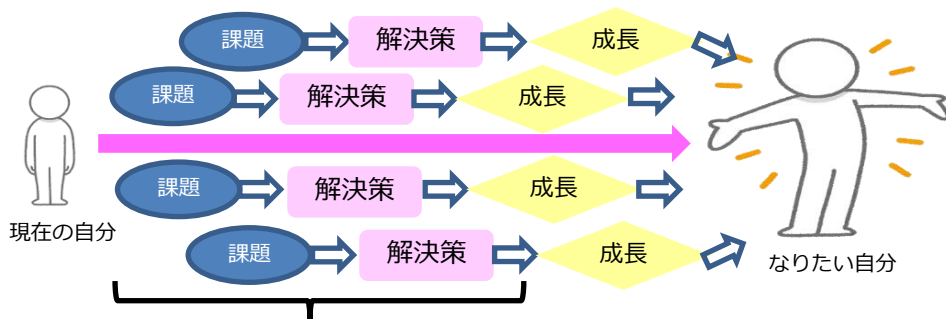
クラス会議の目的・約束・おおよその流れを伝え同意を得る

1 クラス会議の目的を伝え同意を得る

クラス会議の目的について、次の**共同体感覚の要素**4つを発達段階に応じて子どもたちに説明しましょう。これをみんなが感じられる学級の姿を目指そうということ、そのためにクラス会議を行うということに同意を得ます。

子どもに伝えたい共同体感覚のある学級の姿

- ①所属している集団があるという安心感を感じられる学級
- ②仲間のことを信頼することができる学級
- ③自分のあるがまま(よいところもそうでないところも)を受け入れられる学級
- ④貢献しようとする意欲をもてる学級



クラス会議 **みんなで**課題の解決を考える

2 クラス会議の約束を確認し同意を得る

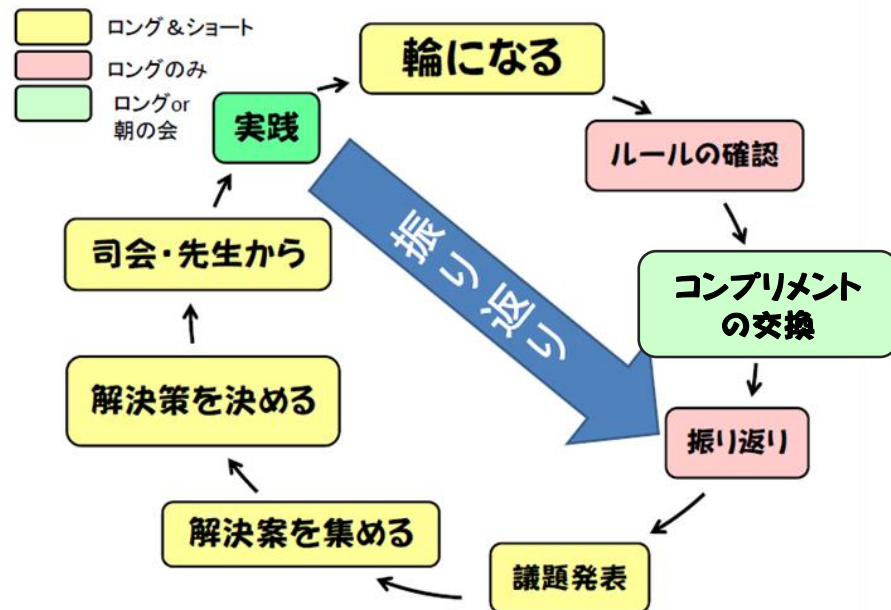
そして、そんな話し合いをするためにはどんな態度が望ましいのかを考えさせます(話すとき・聞くときの態度、どう伝えたらいいだろうか、など)。この様子を見て、状況に応じて、ソーシャルスキルトレーニングを行うなどして、お互いが傷つけ合うのではなく、お互いの協力によって成長していける素地をつくるとよいでしょう。

3 おおよその流れを確認し同意を得る

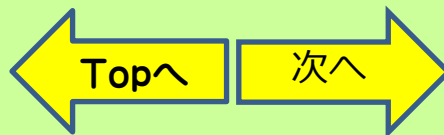
担任の先生の観察から、安心感があり、ある程度安定してルールが守られるようになったら、クラス会議を紹介します。

目的は何か、どのように進めていくのか、あまり複雑で難しいという印象にならないようにわかりやすく説明します。

導入の例として担任の先生が提案者となり、議題を設定し演習をするとわかりやすいでしょう。



3 議題収集のポイントは？



クラス会議の話し合いは楽しいと思えるようにする

はじめは少し気軽な議題から

初めの頃は議題が集まらないことも予想されます。「こんなことを話題にしなくても…」という意識が働くからです。

では、どうするかと言えば、**先生が提案をします**。それについて楽しく話し合います。いろいろな意見を出し、認め合い、クラス会議の雰囲気をつかませるのがよいでしょう。次のような内容がオススメです。

- ①例題で導入する 先生が架空の人物になりきって提案します。
例) A君「お母さんに好き嫌いなく食べなさい」と怒られるけど、食べられない。怒られないようにするにはどうしたらよいでしょうか。
- ②先生の話から導入する 先生の実際の課題を提案します。
例) しめきりが○日ということがよくあるのですが、なかなか期限に間に合わなくて困ります。どうしたら計画的に進められるのでしょうか。

課題収集の留意点

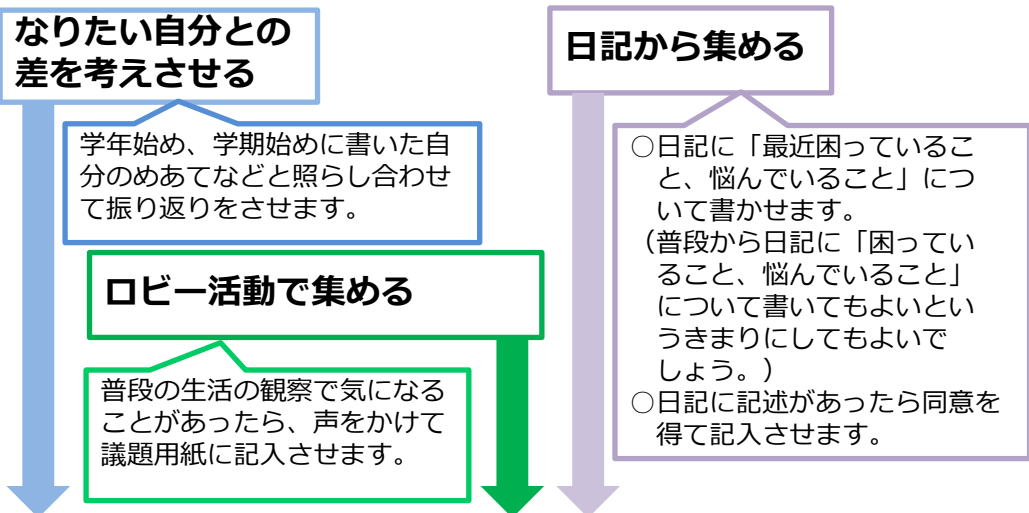
原則的にはクラス会議ではどんな課題も扱いますが、次のような課題については取り扱いに注意します。議題を出させる前に確認をしましょう。

- 注意が必要な課題の例
「家庭のこと」「体のこと」「お金が関わること」

また、課題によっては特定の誰かの名前がでてくることもあります。そういう課題には事前に確認をし、

だれかを責めるのではなく、行為について考える
ようにしましょう。

やはり大事なものは安心・安全な雰囲気



議題提案用紙に集める

会議 みんなで話し合いたい！！議題を提案します！！

提案する人()

議題名

くわしい内容(おんなこで思っている、おんなこどうおもっている)

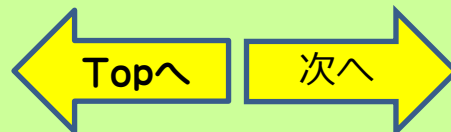
提案した日 月 日 話し合った日 月 日

- ☆議題用紙は、一斉に書かせる場面を始めに設定するとよいでしょう。
- ☆その後は、適宜書いて投函させます。
- ☆出された議題に関しては、**全て話し合うこと**を伝えます。
- ☆原則は記名しますが、本人の希望によっては、匿名も可とし、代理で先生が提案することもあるというルールを設定してもよいでしょう。

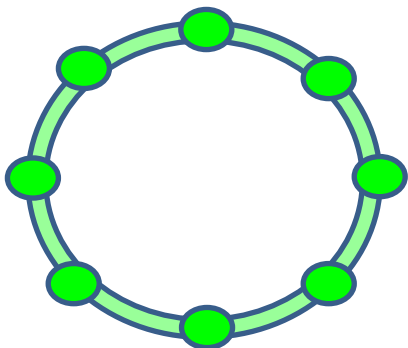
全体に議題の提案・課題の話し合い・解決策の決定

自分の課題も解決して欲しいという意欲が高まる

4-1 「輪になる」 目的と指導のポイントは？



輪になる目的 ＝対等性の意識付けと安心感をもてるようにするため



クラス会議は原則として、左図のように輪になって話し合いを行います。この目的は、

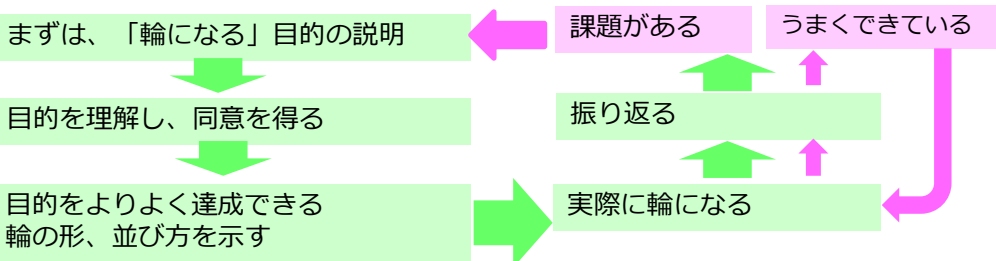
皆が対等であることを意識づけるため

です。きれいな円を作ると、互いの顔を見合えるようになります。

誰かの強い意見によって話し合いをまとめるのではなくて、一人ひとりが自分なりの参画をして、それぞれが居場所を感じられるようにするために、輪になり、何度も繰り返す経験をとおして皆が対等であることを理解させる必要があります。

1 さあ、輪を作ってみよう！

活動の目的を子ども達に説明して、よりよい取り組み方を全体で模索するプロセスや、やってみてできたことなどその成果を共有できるように、先生方は仕掛けていく必要があると考えます。



【セルフチェックの観点例】

- ・みんなの顔がきちんと見えるきれいな輪である (輪の形)
- ・○分で輪になることができた (所要時間)
- ・みんなで、協力して輪を作ることができた (協力)

2 留意点～こんなことに気を付けよう～

筋力が弱い子どもにはいすを使う (特に低学年)

いすを用いず、床に直接座って行うことも可能ですが、特に小学校低学年の子ども達のように筋力がついていない子ども達が数十分、直接床に座って、同じ姿勢を維持するのは大変であるためです。ある程度筋力がついている、スペースの確保が難しいなど条件によってはいすを使わないという選択をしても構いません。

気持ちのよい生活をするための清掃・整頓指導を

教室にスペースをつくる際に、床にゴミが落ちていては雰囲気台無しになってしまいます。教室は常に整理整頓、丁寧な清掃を心がけるようにしましょう。

並びが固定化しないようにするには

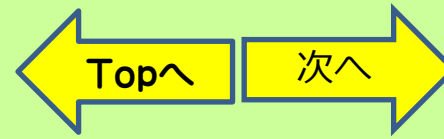
輪になると並び方に集団の人間関係が表れることもあります。学級の実態に合わせて、次のような手立てで並び方をあまりに固定化しすぎないようにしてはみてはいかがでしょうか。

- ・クラス会議の目的と照らし合わせて議題にし、解決策を話し合う。
- ・遊びの延長で席を決める。

(例) 「じゃんけん列車」「バースディチェーン」「フルーツバスケット」



4-2 コンプリメントの交換 目的と指導のポイントは？



コンプリメントの交換の目的

- ・ 温かな雰囲気作りをする
- ・ よりよい人間関係の構築をする
- ・ 肯定的な感情に注目できるようにする

1 コンプリメントの交換の約束を確認する

☆ 取り上げない話題を確認すること

自分ではどうにもならないこと、言われて傷つくことは本来の目的とは異なってきますので、言わないように約束しましょう。

取り上げない話題の例

「家庭のこと」「お金のこと」「体のこと」

☆ パス権、ヘルプの確認をすること

パス権

クラス会議では、発言をパスする権利が認められます。「不参加」ではなく「発言しない権利」を行使するということを周知しましょう。発言はしないけれど、うなずいたり、拍手したり、笑顔で聞いているなど肯定的な感情をもって参加している部分を認めていきましょう。

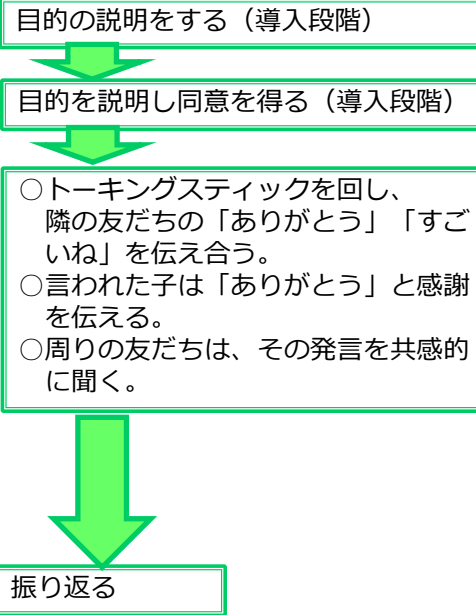
ヘルプ

友だちへのコメントが難しいけれど、何かを言いたいという時は「ヘルプ！」といって周りの子に代わりに発表してもらいます。言ってもらったら、ヘルプと言った人も同じ内容を復唱します。



THANK YOU

2 コンプリメントの交換の手順



☆ 内容について、「事実」とそのときの「気持ち」を話すように説明をします。
☆ 初めのうちは、話す内容、話し方の例を掲示して、それに合わせて発表してもよいでしょう。

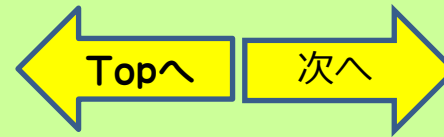
☆ 担当が適宜モデルとなって、発表を見せることで話し方を理解させてもよいでしょう。
☆ 照れくささから、なかなか発言しないということが予想されます。
そういう時は、
● 目的をふりかえる。
● 言わないことを責めず、出された発言を取り上げて、聞いていてどんな気持ちになったかを全体に伝え勇気づけるなどして意欲をもたせるようにしましょう。

コンプリメントの交換の効率化

- ・ 輪になってコンプリメントを交換することは温かな雰囲気作りに非常に有効です。反面、時間がかかるのも事実です。そこで「全員が全員を認め合う場面」を設定すると、時間確保ができます
(例：日直のよいところを発表しよう、「友だちのよいところシート」に記入し、掲示するなど)
- ・ 学級の人数が多い場合、話し合いの時間を多く設けたい場合は、
☆ 小グループでコンプリメントの交換を行う。
☆ 輪の奇数の子にコメントを、次回には偶数の子にコメントを伝えることもできます。

大事な方法はなく、目的です。

4-3 「議題の提案」 目的と指導のポイントは？



1 困っていること、解決したいことを明らかにさせる



いよいよ「議題の提案」ですが、提案されることの中には、課題がいくつも含まれている場合があります。それをそのまま話し合いにもっていくと、いろいろな課題に対応したアイデアが混在していき、話し合いをまとめるのが難しくなります。ですから、提案の際に話し合うべき点が複数あると感じたら、司会者（慣れていない場合は先生）が今、話し合いたいことを提案者から聞くようにしましょう。

提案のポイントは

- 提案者が何に困っているか
- 解決したいのは何か
- それをここで話し合いたいかどうかを明らかにします。

2 聞いている人は、自分のこととして考える



提案を受けて、みんなで話し合っていくのですが、周りの友だちが、それに対して無関心であったり、机上の空論を展開しては話し合いのプラスのメリットは半減してしまいます。そこで、「共感」しながら、聴くということをくり返し伝えていくことが求められます。「『共感』とは相手の目で見、相手の耳で聞き、相手の心で感じることである。」とアドラーは述べていますが、まさにそうした態度で聴くことを意識させます。

課題に共感して聴ける雰囲気が出てくると、

- 聴いてくれた相手を信頼できるようになる
- 相手の立場で考えられるようになる
- 集団のつながりが強まるようになる

3 提案の後に、話し合うことを確認する

提案をしたら、司会者が提案の内容を確認します。そして、みんなで解決策を考えることに同意を得ます。そして、話し合いのルールを確認し、話し合いに入っていきます。



話し合いのルール

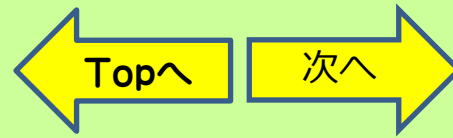
- ① 話しやすい雰囲気をみんなで作る。
- ② 思いやりをもって話す・聞く。
- ③ 解決策を協力して考える。



このようなシートを作成し、教室に掲示しておくとかラス会議以外の学習場面でも意識されますので、効果的なようです。



4-4「解決のアイデアを出し合う」 指導のポイントは？



1 ブレインストーミングの方法の確認

*ブレインストーミングのお・や・く・そ・く

- 質より量
- 批判NO!
- 自由な発言OK!
- 組み合わせ、コピーOK!!
- 話し合いを楽しむ!

アイデアを出し合うときには、ブレインストーミングの手法を活用します。自由な発想を引き出すように心がけます。そうしてくると、奇想天外な意見もちらほら出てきます。思わず、「それは無理だろう…」と言いたくなるのをグッとこらえて、先生は認めるようにしましょう。そこに解決のエッセンスが含まれていることもあります。トーキングスティックを回しながら、「自分のこととして」たくさんの意見を収集していきたいものです。

これも教室に掲示しておく、授業などでの話し合いの場面に役立ちます。

2 「聞き方 あ・い・う・え・お」を実践してみよう

意見を言うときに子ども達ももっとも恐れているのは「周りの冷たい反応」ではないでしょうか。自信をもって自分の考えを言えるようになるには、「言っても大丈夫だ」と言える雰囲気が必要です。ここで紹介している「聞き方のあいうえお」は発言を勇気づける相づちになります。学級で事前に楽しく練習をしてみるいいかもしれません。ただ、パターン化、形骸化していかないように継続的な声かけが必要です。こうした行動をするのが目的ではなく、相手を受け入れようとする気持ちが大事なのだと伝えていきましょう。

聞き方の

あ・い・う・え・お

あ い う え お
あ い う え お

どんな表情でどんな声でどんな反応をすれば、話すのがハッピーになるかな？

学級で、この相づちの仕方を練習すると、なぜかとても盛り上がります。そして、話している方も嬉しくなる様子が見られます。表情や声色にも注意させて「聞いているよ」という意思表示が自然にできるようにしましょう。

3 留意点～こんなことに気を付けよう～

★発表者が困っているときは

○声が聞こえない

発表者の声が聞こえないことがあります。小学校低学年でよく指導されている「声のものさし」などを意識させて適切な声量で話すようにさせましょう。また、周りも責める言い方でなく、応援する言い方、勇気づける言い方を意識させます。

○意見が言えない

「意見を言いたいんだけど、浮かばなかった…」という状態で、トーキングスティックが回ってくるということがしばしばあります。「パス権」の話をして、意外と「発言しないこと」への嫌悪感がある子は多いようです。そうした時には、先生が少し待って「パス権」を勧めてみましょう。「次は言えるといいね。」といった温かい言葉がけを忘れないようにしましょう。

★「自由で楽しい」は「好きなように、傍若無人に」ではない

ブレインストーミングで発言を認めるという宣言をすれば、好き勝手な発言をする子どもが出てきても不思議ではありません。

もしかすると、温かな雰囲気に甘んじて、「だらけている」様子が見られるかもしれません。

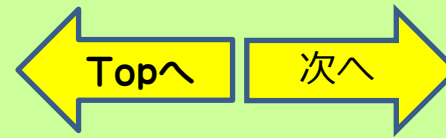
もちろん、事前に指導をしておく、というのもよいのですが、こういう場面が起きたときに子ども達に考えさせるというのも必要です。先生方によって対処が異なると思いますが、次のようなアプローチはいかがでしょうか。ただ、頭ごなしに怒ってしまうと、本来の目的達成が難しくなってしまうようです。

好き勝手を是正するために・・・

- クラス会議の目的を確認する
- その結果どうなるかを予測させる
(自分にとって、集団にとって)
- 注目しない etc・・・



4-5「解決策を決める」 指導のポイントは？



どんな解決策を選べばよいのか視点を与える

仲良くしている〇〇ちゃんと言ってくれたからな、〇〇ちゃんの意見を選んだ方がいいのかな・・・。

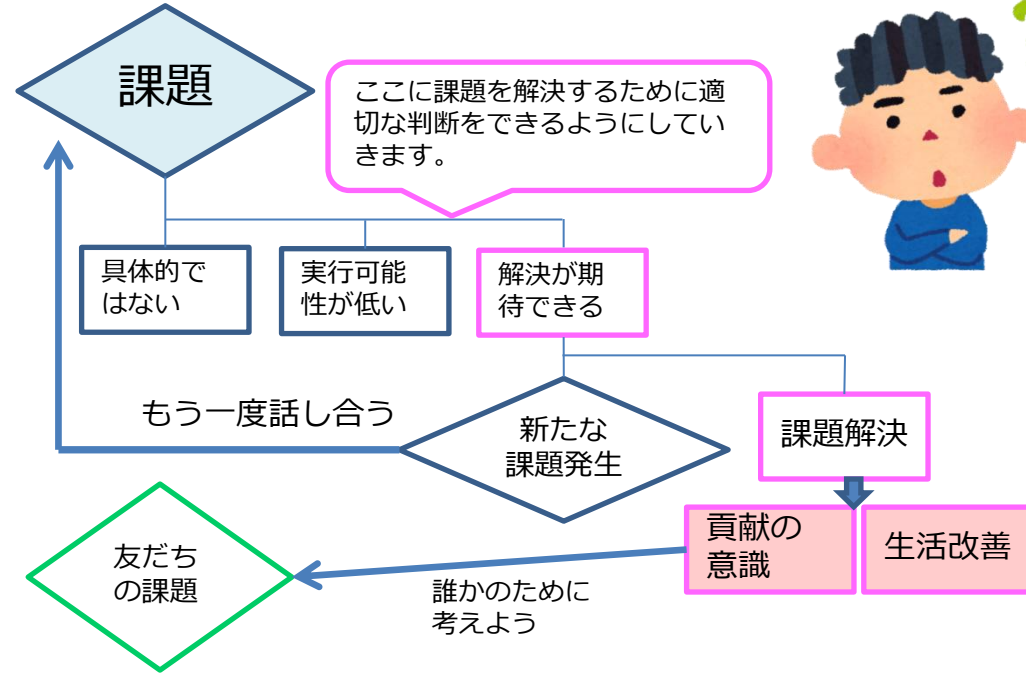
確かに、発言の内容如何に関わらず、「何を」言ったかではなく、「誰が」言ったかを大事にすることが往々にしてあります。しかし、これでは課題を解決できないこともあるし、そもそも話し合う必要性は半減してしまいます。そこで、「解決策を決める」に当たって事前に次のような助言が必要になってきます。

- 「ためになる」解決策を決めるために
- ☆具体的な内容のものを選ぶ。
- ☆努力をすればできること（実行の実現可能性で）を、選ぶ。
- ☆それに挑戦することによって起きる結果を予測して選ぶ。

- ☆具体的な内容のものを選ぶ
- 子ども達は抽象的な解決のアイデアを出すことが初めは見られ、それを選んでしまう傾向が見られる場合があります。でも、「がんばる」「心がける」と言っても具体性が無ければ何をどうしていいのかわかりせず、振り返りも困難です。具体的な内容のものを選ぶよう、助言が必要です。

- ☆努力をすればできること（実行の実現可能性で）を、選ぶ。
- アイデアの中には一見荒唐無稽なアイデアが出てくることもあります。こうしたアイデアに隠された解決のヒントを無視しないため、出し合う場面では認め、選択の場面で、可能か否かを判断させます。自分は挑戦できるのかどうか、を考えて選ぶようにお話してあげてください。

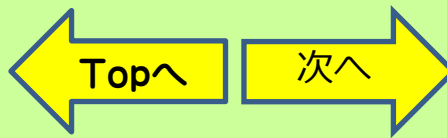
- ☆それに挑戦することによって起こる結果を予測して選ぶ。
- これがもっとも大事な視点です。課題に対して、この選択によって解決が期待できるかどうかを第一に考えるよう助言してください。この判断ができるようになることで、課題を解決するための選択をすることが大事であることを体験的に学ばせられるためです。



実際に見られた変化～ある学級での出来事～

ショートver.に取り組み始めたある学級の出来事です。毎日帰りの会に「課題の解決」を話し合ってきましたが、どうしても都合がつかず、できない日がありました。その時に、子ども達から「クラス会議やらないんですか？」の声が上がりました。担任の先生はクラス会議が、なかなかうまくいかない、と悩んでいたのですが、子ども達は誰かの課題を解決してあげよう、自分のことを聞いて欲しいという意欲は高まっていたことに気づいたのでした。誰かのために行動する心地よさを味わわせたいものですね。

4-6 「振り返り・実践」 指導のポイントは？



話し合いを振り返る～自分たちは共感・協力できたか～

取り組みを「見える化」する

【クラス会議の振り返りシート】

【解決策の記録と実践の記録】

クラス会議振り返りシート

月 日 () 名前

・今日のクラス会議での自分のことについて番号に○をつけてね

(5…とてもよくできた、4…できた、3…どちらとも言えない、2…できていなかった、1…全くできなかった)

① 話しやすいふんいきをつくろうとしましたか。	5	4	3	2	1
② 思いやりをもって話す・聞くことができましたか。	5	4	3	2	1
③ 解決策を協力して考えること(考えてもらうこと)ができましたか。	5	4	3	2	1

今日のクラス会議で友だちのよかったところを書いてください。

今日のクラス会議で自分がよかったなあと思ったところを書いてください。

クラス会議が終わったら、振り返りと実践につなげていきます。

まずは、「話し合いは目的達成に向けてどうだったか」ということを、自己評価させます。上のワークシートはあくまでも例ですが、観点を決めて、評価をします。継続的に取り組むので、あまり負担荷重にならないようにしたいものです。

この子ども達の自己評価をもとに、次のクラス会議では、担任の先生から、助言をして話し合いを始めると、連続性のある活動になっていきます。

解決策

議題

第 回 クラス会議 (月 日) 提案者

話し合った日 月 日	日	日	日	日	日
課題は解決 できましたか？ 10点満点中何点？					

これは、議題と選ばれた解決策、その実践を評価する掲示用のワークシートです。話し合ったことに責任をもって、ということを実際の行動を通して学んでいく、大切なツールになります。
(教室環境について)

1 どんな準備が必要なの？

Topへ

次へ

11

クラス会議は準備の簡便さも特徴です。ここでは、一般的にクラス会議に必要なだと言われているものを紹介します。なお、**学級の実態、先生の思い**でいろいろと付け加えても構いません。大事なのはクラス会議を行う目的を意識することです。

クラス会議に必要な物

□議題箱 議題の提案用紙を集約する



- クラス会議では、子ども達から出される課題をもとに話し合いますので、課題を集約する議題箱を設置します。
- 素材や作り方には特に指定はありません。先生が作ってあげても、子ども達と仲良く作っても構いません。
- 「ショートver.」と「ロングver.」を併用する場合などには、小型の段ボール箱を二つくっつけて、2口のポストで内容ごとに分けて作るなど工夫をしてみると楽しいかもしれません。

□議題用紙 課題意識をはっきりさせる

会議 みんなで話し合いたい！ 議題を提案します！	
提案する人 ()	
議題の内容(話し合いの目的)を記述している 悩んでいる 悩んでいる 助けを欲しい 相談したい アイデアが欲しい) など記入してください	
内容	
話し合いの理由	
提出日 月 日	話し合い日 月 日

- クラス会議では、子ども達から出される課題をもとに話し合うので、議題の収集は必要不可欠です。
- 一般的には左図のようなワークシートで子ども達から課題を収集します。様式についても固定されたものではありませんので、学級の実態や発達段階に応じて適宜修正したり、作成したりしても構いません。

□トーキングスティック 発言者の権利の象徴



- クラス会議で特徴的なのがこのトーキングスティックと呼ばれるものです。これが話し合いの最中に隣の人へ隣の人へと回ってきます。このトーキングスティックを持っている人に発言権があります。
- トーキングスティックは発言権の象徴ですが、意見が言えない、特に意見が無い場合は「パス権」を行使することができます。
- トーキングスティックは人形やマイクなど何でも構いません。但し、丁寧に扱うように指導し、**トーキングスティックとなるもの選択も実態に合わせて必要となります。**

□掲示・記録 クラス会議の足跡を「見える化」する

解決策	議題
第 回 クラス会議 (月 日) 記録表	

- クラス会議においては「決めたことを実践する」「実践したことを振り返る」というプロセスを大事にします。そこで、左図のようなワークシートに議題と解決策を記入し、掲示すると便利です。
- これまでの実践では、積み重ねを「見える化」するために何十枚も横に並べていく形式と上に重ねて貼っていく形式があります。スペースと、目的を検討して、掲示方法を工夫してみてください。
- 「クラス会議ノート」を作って記録する方法もあります。

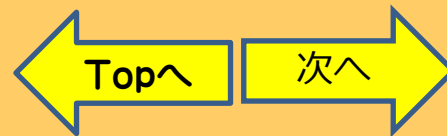
□その他 あると便利なもの例 先生や子ども達の工夫で楽しく活動を盛り上げましょう！

- サイコロ…発表の順を決める(奇数→時計回り、偶数→反時計回り)など
- くじ……………席順を決める時に活用する。
サンキューリングで引いた名簿番号の人について発表するなど

○サンキューリングのワークシート

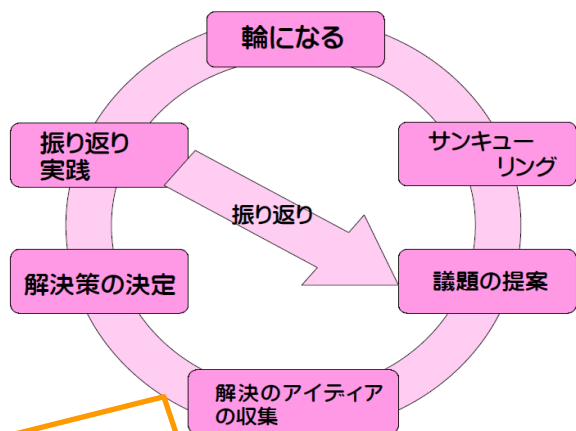
…サンキューリングの際、事前に席を決めておき、予め記入していくものです。これも掲示していくと、子ども達が見ながら、それぞれの良さを共有したり、何を言えばよいかのヒントになったりする効果が期待できます。

2 だれが、いつ、 クラス会議をするの？



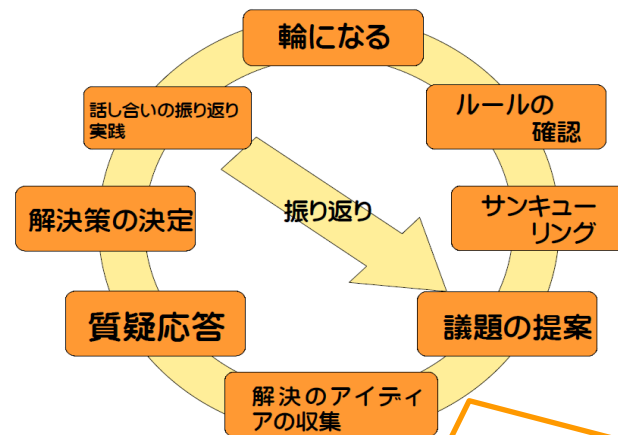
クラス会議を学校生活のどの部分にどのように取り入れればよいのでしょうか。先行実践例を紹介します。大きく分けて2つのクラス会議が行われています。

A 朝の会(帰りの会)で行うクラス会議 → ショートver.



実施するのは 毎日の朝の会(帰りの会) 10~20分程度
対象は 小学生・中学生・高校生の学級など
扱う課題は **個人の課題**
例 宿題に取り組む時間が遅くなって眠るのが遅くなってしまふ。

B 学活で行うクラス会議 → ロングver.



実施するのは **学級活動の時間 45分程度**
対象は 小学生・中学生・高校生の学級など
扱う課題は **集団の課題**
例 運動会の練習でみんなのやる気が下がっていると感じる。どうしたら、みんなが全力で取り組むことができるだろう。
例 学習発表会后のお楽しみ会を行いたい。

ショートver.に期待できること

- コンパクトなシステムで継続しやすい。
 - 比較的個人の課題を扱いやすい。
- **繰り返し、仲間の課題を皆で話し合うことで個人の集団に対する良好な意識が高まることが期待できます。**

学級の実態に合わせて、ショートver.とロングver.の選択や混合などを計画し、実施するのがオススメです。ポイントは定期的に、継続的にできるように計画をすることです。

ロングver.に期待できること

- 意見の交換など充実した話し合いができる。
 - 比較的集団の課題を扱いやすい。
- **じっくり話し合うことができるので集団の機能を高めていくことが期待できます。**

1 教師の指導・助言のタイミングは？

Topへ

次へ

13

クラス会議の極意

クラス会議のポイントは指導者が成果を求めすぎない、ということなのかもしれません。以下のポイントを意識して、じっくりと子ども達に向き合ってみましょう。

子どもの成長を促す指導者の態度を復習しましょう



実施当初、議題が幼稚であるとか、話し合いのレベルが低いのではないかと、いった指導者の思い通りにならないことや、話し合いがうまく進まないということが予想されます。でも、それが子ども達のあるがままの姿なのかもしれないと捉え、必ず変化していくことを信じて積極的にサポートをしましょう。

繰り返している中で、抽象的ですが子ども達の顔が変わってきます。また、指導者も子どもを見る視点が変わってきます。

クラス会議の極意

- 1 結果を求めすぎない
- 2 プロセスを大事にする
- 3 ちょっとした進歩を大切にする
- 4 よいところに目を向ける
- 5 完璧を求めすぎない
- 6 指導者は子ども達が勇気もてるよう支持する

クラス会議は経験の積み重ねと振り返りがポイント

☆クラス会議では「うまくいかない」という学びも大切にします。

クラス会議で試行錯誤を経験して

- 集団において自分のよさに気づき、発揮できるようになる
- 集団で気持ちよく生活をしていけるスキルを身に付けられるようになる
- 他人の気持ちをしっかりと受け止めて考えたり、意見を言ったり、行動したりできるようになる
- みんなでがんばるとうれしい。一人ひとりが大事な仲間だ、と思える

予想される成功体験・失敗体験

成功体験

- 友だちに認められた。
- 自分の考えを言えた。
- 自分の考えをもとに行動できた。
- 友だちの良さを発表できた。
- みんなの良いところが見えるようになった。
- 多くの意見の中から、よいと思うアイデアを選べるようになった。

失敗体験

- △時間内に結論を出せなかった。
- △友だちの意見を聞いていなかった。
- △友だちの課題を真剣に考えなかった。
- △決めた内容に不服だった。だから、取り組まなかった。
- △決めたことを忘れて行動しなかった。
- △自分の意見があったが言わなかった。

クラス会議で体験的に繰り返し意識されること

- 1 みんな対等
- 2 みんなで協力する
- 3 みんなで話しやすい雰囲気をつくる
- 4 お互いに尊敬し合う
- 5 話し合いでは責めるのではなく解決策を考える意識をもつ
- 6 自分たちで決めたことは自分たちで守る
- 7 物事はいろいろな見方ができる
- 8 認められることでやる気がでる

1 教師の指導・助言のタイミングは？

Topへ

次へ

14

1 先生が助言・指導するタイミングの基準

クラス会議で付けたい力は共同体感覚です。
でも、段階的に自立を促すことが大事な視点です。

クラス会議は、温かな雰囲気の中で、子ども達が伸び伸びと話し合えるということが必要不可欠な条件です。

しかし、場合によっては指導・助言をした方がよいのでは、という場面にしばしば遭遇します。

担任の先生がしっかりとぶれない基準を持ち、「放任」でも「管理」でもなく、実態に合わせ柔軟に判断していくことが必要です。

今何が必要なのかを見極め指導・助言をしましょう。

2 クラス会議で積極的に行いたいこと・避けたいこと

積極的に行いたいこと

- 集団に対しての意識が変容してきていることを見つけ勇気づける。
- 結末を予測させる習慣づけをさせる。
- 話し合いにおける望ましい態度のモデルとなる。

避けたいこと

- ▲議決したことに対して、意見を述べることで話し合いの意義を失わせる。
(助言は話し合いの前に視点を与える。)
- ▲話し合いに対して、批判的な発言をする。



3 継続と共に現れることが予測される課題

観察で見つかることが予想される課題

対策

あまり協力的ではない態度

- 目的を確認し、同意を得る。

相手が傷ついてしまう言葉遣い

- ソーシャルスキルトレーニングなどでスキルを習得させる。
- その言葉遣いが起こす結果を予測させる。

関係性に課題がある

- 対人関係ゲーム、グループワークトレーニングなどで協力する良さを体験させる。
- コンプリメントの交換を丁寧に行い、関係を再構築する。

運営の方法に課題がある

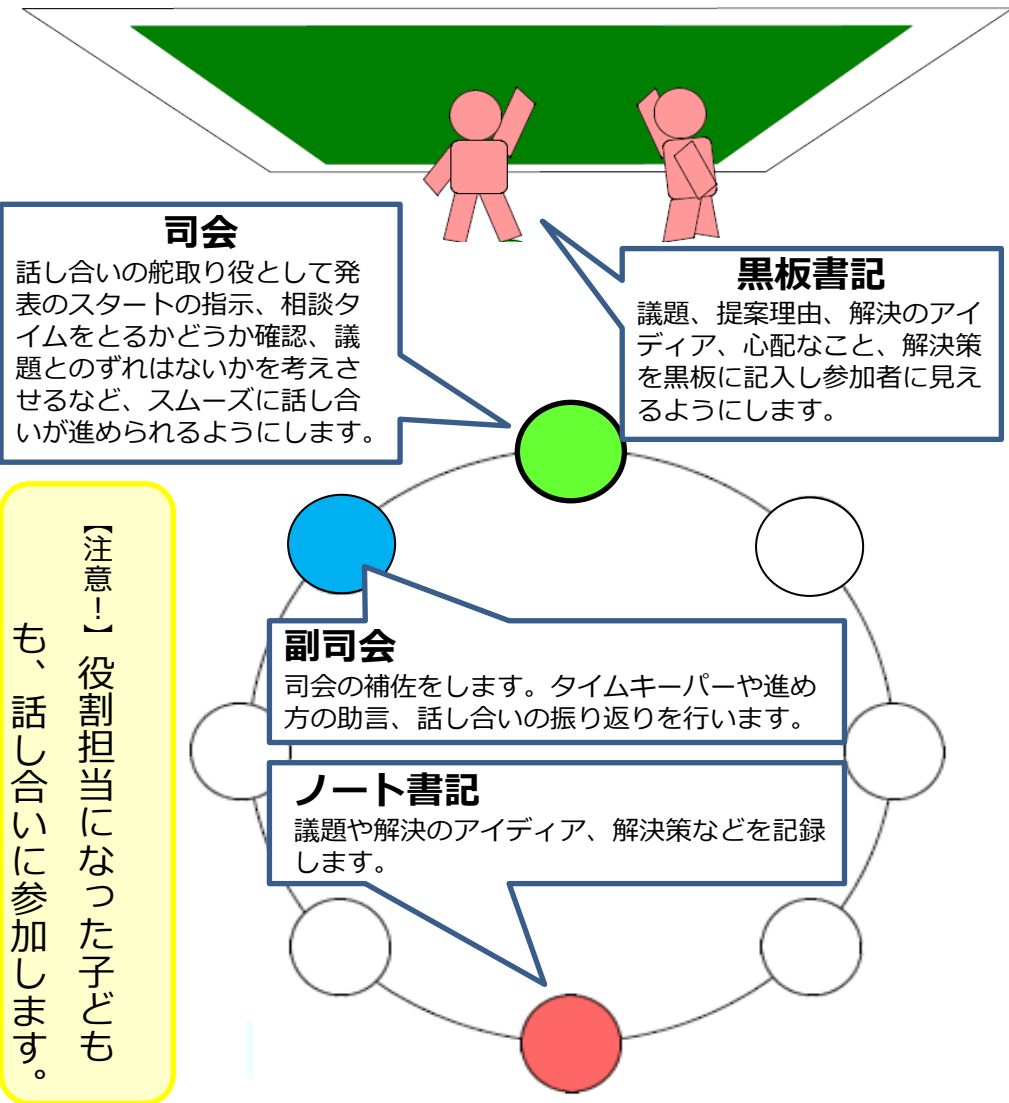
- クラス会議の議題として話し合う。

段階的に自立を促すためには、子ども達自身が自分たちのことを適切に評価できるようにします。

最後の振り返りでは、話し合い自体が効果的であったかどうかを子どもたちに評価させ、次につなげていくという取り組みを継続したいものです。

2 司会・書記の指導

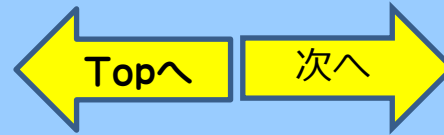
クラス会議の役割分担～みんなの話し合いをみんなで作り上げるために～



集団の段階と教師の介入内容

段階	介入頻度	介入の内容
教師の指導優位期	教師の介入レベル 子ども主体の課題解決のレベル	<ul style="list-style-type: none"> 慣れない間は司会を先生が行い、話し合いがスムーズに進むイメージを共有します。 先生が意識することは、①話し合いのルールを確認・定着させること（例、話の聞き方、指定した時間の中で進行していくなど）、②発言を受容する態度のモデルになることがあげられます。 副司会は特に設定しません。 黒板書記は3名程度配置し、スピーディに記録できるように声がけをします。
子どもの自由度増加期		<ul style="list-style-type: none"> 司会を子どもが行い、話し合いがスムーズに進むよう、先生が副司会になって補佐をします。 ①話し合いのルールを確認・定着させること（例、話の聞き方、指定した時間の中で進行していくなど）、②発言を受容する態度のモデルになることなど、参加しながら指導を行います。 黒板書記は実態に応じて、2～3名程度配置し、スピーディに記録できるように声がけをします。
自治的集団期		<ul style="list-style-type: none"> 司会、副司会その他の役割を子どもに任せます。 黒板書記は実態に応じて2～3名程度配置し、スピーディに記録できるように声がけをします。 先生は、話し合いを笑顔で、明るく見守ったり、認めたりすることに専念します。

2 司会・書記の指導



【書記の指導】話し合いのあしあとが見える板書にする

【話し合いを深めるための黒板記録】

第〇回 クラス会議

議題
宿題を始める時間がおそくなる。
話し合いたいと好きなことを先にやってみてしまつてなかなか始められない。とても辛くなる。

解決案
目に見えるところに注意書きを貼る。
時間を決めてやる。
親に声をかけてもらう。
好きなことをやる時間を決める。
アラームをかける。
宿題をたのしいにする。
好きなことと宿題を交互にやる。
スケジュールを立ててやる。

天井に貼る
よくみるように貼る

簡潔に意見をまとめていきます。

提案者が何にどう困っているかなど、視点を
はっきりさせましょう。

解決のアイデアを
囲みます。

質問がでたら、その
答えを記録する。

【ワークシートを活用したノート記録】

第()回 会議の記録	
月 日()	記録者()
【議題】	提案者()
【提案理由】	
【解決のアイデア】～ポイントをまとめて書きましょう～	
発言者	解決のアイデア
	心配な点・気になる点
【解決策】	

クラス会議も通常の学級会と同様、黒板やノートに記録をしていきます。どんな話し合いがあったかを、みんなで共有するためです。

しかし、発言全てを記録するのは物理的に無理が大きく、また煩雑になりがちです。ですから、次のようなポイントを意識しましょう。

- ① 似た内容はまとめて記録する
- ② 言いたいことのポイントを記録する
- ③ 配色にルールをもたせて、わかりやすく表す

といったことに留意し、最初は先生とともに、そして、徐々に子ども達の力で進めていけるようにしていきましょう。

教室環境

Topへ

次へ

〇〇会議コーナー

話し合いのルール

- ① 話しやすい雰囲気をみんなでつくる。
- ② 思いやりをもって話す・聞く。
- ③ 解決策を協力して考える。



ロング②

ロング①

ショート④

ショート③

ショート②

ショート①

議題用紙

何度も繰り返し意識させたいことを掲示します。

クラス会議をとおして子ども達に考えてほしいこと、意識させたいことを、忘れないように、説明後、掲示すると定着が期待できます。

時折、掲示の内容が実態に合っているかを検討しましょう。(掲示例①、②、③)

議題箱

学級の実態にもよりますが、初めは提出された議題用紙は担任の先生が取り出し、クラス会議に活用しましょう。

議題用紙入れ

いつでも、子ども達が議題を書けるように、普段からチェックしておくようにしましょう。

議題用紙の様式に関しては、例をもとにして、工夫して作ってみてもよいと思います。

解決策

議題

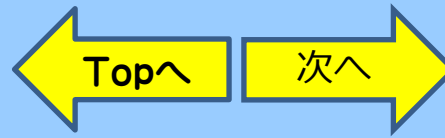
第 四 回 クラス会議 (月 日) 提 登 者

話し合った日							
月	日	日	日	日	日	日	日
議題は解決 できましたか?							
10分間の中間点?							

議題と、選んだ解決策、評価などが記入できるワークシート(上は例)を準備し、話し合い終了後、記入し掲示しましょう。

ショートとロングを併用の場合は、掲示場所を分けるなどして、見やすいレイアウトが大事になってきます。

4 つけたい力を意識した 教師のかかわりの視点



温かな雰囲気づくりと勇気づけ

みなさんは、どんな子どもを育てたいと考えますか？
「人の言うことに従うだけの子ども」ですか？それとも、「自分たち
で考えて、行動し、その責任をもてる子ども」ですか？ネルセンは
『クラス会議で子どもが変わる』（コスモス・ライブラリー 2000）
において、教師が子どもの成長を促す行動（ビルダー）と成長を妨げ
る行動（バリアー）について次のように説明しています。

ビルダー（成長を促す行動）	バリアー（成長を妨げる行動）
確かめること →本来もっている能力を正しく認識すること	決めつけること →本来もっている能力を制限
問いかけること →自分の力で問題解決を図る機会を与えること	救い出すこと / 説明すること →自分の力で物事を決める機会を奪う
勇気づけること →自発性を促す	指示すること →自発性を排除、依存性を強める
賞賛すること →可能性や、成長過程を勇気づけること	期待すること →一歩間違うと評価規準になる
尊敬すること →支持的風土を醸成する	大人中心主義 →未熟なことを責め罪悪感を生む

また、ネルセンは子ども達を大切にしているということを伝えるために次のような態度やスキルを指導者は身につけるべきだ、と主張しています。

改めてみると、普段から気を付けたいことがまとめられているので紹介させていただきます。

子どもを大切にしていることを示す態度やスキル	
①声のトーンに気づく	指導者自身が自分の声のトーンを意識して話すようにする
②子どもの声に耳を傾け、受け取ること	子どものことを尊敬し、その思いをくみ取ろうと努めること
③仕事を楽しむこと	子ども達を仕事の対象として見るのではなく、対等に扱い、接することを楽しむ
④ちがいを認めること	子ども一人一人がもつ良さに注目させる。また、それを自身が進んで認めること
⑤子どもにふさわしい態度をとること	接する子ども達の発達段階に合わせて、適切な接し方を心がけること
⑥ユーモアのセンスをもつこと	子ども達を大切に思い、学校でのその子の評価などを度外視して明るく接すること
⑦学校以外に関する興味を尊重すること	子ども達の隠された感情をも理解しているという気持ちを表現すること
⑧子ども達を参画させること	子どもをコントロールするのではなく、参画させることで、責任をもたせる
⑨完璧ではなく、進歩で	完璧さを求めるのではなく、進歩を勇気づけることで信頼感が生まれてくる

5 つけたい力を意識した 教師のかかわりアイディア

Topへ

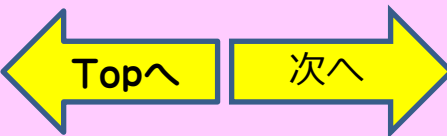
次へ

19

年間を見通したクラス会議の年間指導計画例

月	学校・主な行事例	学級集団の目標例	チーム段階に基づく教師の関わり	クラス会議(段階的に重点を変える)
4	○始業式・入学式 ・学校教育の指針 ・教育課程の確認	<ul style="list-style-type: none"> 学級組織づくり 学級目標の設定 安心感をつくる ゴールを設定する 	緊張期 ①基本的な仕組みをつくる ②教師への安心感・信頼感をつくる ③いち早く教師の言葉が入る状態をつくること	
5	○運動会 →規律と信頼感、達成感	<ul style="list-style-type: none"> ルール・関係性を築く 集団行動に求められることを学ばせる 目標に対して努力して成就感を味わう 	教師指導優位期 わかりやすい授業をし、子どもをよく理解して、ほめたり、叱ったりしながらかわり、やる気を出させてくれる教師の関わり 子どもにとって ①理解してくれる ②ほめてくれる ③叱ってくれる ④やる気を出させてくれる教師であること	
6	○たてわり遠足 →異学年交流	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流を楽しむことができる 		
7	○終業式	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の学校生活を振り返り、2学期への期待をもつことができる 		
8		<ul style="list-style-type: none"> 2学期の学級、個人の目標を立てる 		
9	○(宿泊学習) ○(修学旅行) →集団生活	<ul style="list-style-type: none"> 集団の生活に際して、必要なマナーを学んだり、実践する 	子どもの自由度増加期 子どもの自由度を上げる チームになる意味を伝える ①目指すクラス像を意識づける ②雰囲気をつくる ③学級の最小単位をつくる ④全員による課題達成の経験を積む	
10	○学習発表会 →創意工夫 成就感・達成感			
11				
12	○終業式	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の学校生活を振り返り、3学期への期待をもつことができる 		
1			自治的集団期	
2	○6年生を送る会 →自主的・自発的			
3	○卒業式・修了式	<ul style="list-style-type: none"> ゴールへの到達度を評価する 		

1 今、求められる アドラー心理学の教育論



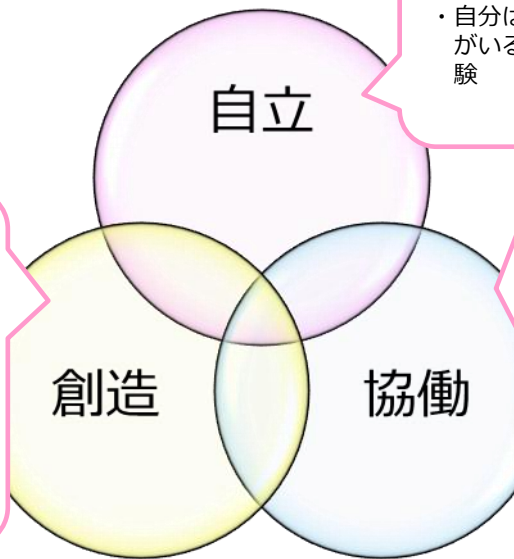
今、学校教育で求められるもの

これからの我が国における教育の方向性として、「社会を生き抜く力」の育成が必要であるとし、その要素として「自立」「協働」「創造」の資質の育成が求められています。

- 社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して一人一人が自らの可能性を最大限に発揮しよりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。
- 自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

(文部科学省 教育課程企画特別部会 論点整理 2015)

社会を生き抜く力の基盤



- ・自分のことが好きだと思える経験
- ・自分は信頼できる仲間がいると感じられる経験

- ・自分たちの生活を振り返り、課題を発見する経験
- ・話し合いや、実際の行動をとおして、自分たちの生活を自分たちの力で改善していく経験

- ・話し合いをとおして折り合いをつける経験
- ・話し合っ て決めたことをとおして実践し、その成果を共有する経験

このような資質や能力の基礎は決して一朝一夕で身につくものではありません。継続された経験と試行錯誤による学びが求められます。

アドラー心理学とは・・・



アルフレッド・アドラー (1870~1937) が打ち立て、さらに後継者が発展させ続けている心理学です。欧米では、創始者アドラーはフロイト、ユングと並んで「心理学の三大巨頭」の一人と称されています。

このアドラー心理学を基にした、臨床・子育て・教育の目標は「**共同体感覚**」を身に付けることとされています。※人生で出会う様々な対人関係上の困難を克服する活力を与える**勇気づけ**を主な手法としています。

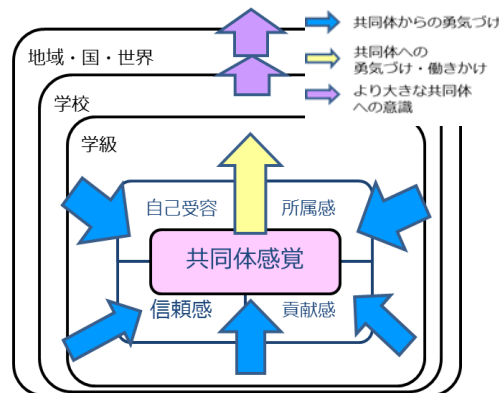
共同体感覚とは・・・

「共同体感覚」とは、アドラー心理学の中心概念の1つです。「共同体」とは、個人が所属する集団を指します。家庭、学校であり、もう少し大きく見れば、国家、世界といったものも、「共同体」と考えます。「共同体感覚」とは、アドラー自身は詳しく述べていませんが、野田俊作氏によると、

- ① 私はありのままの私のことが好きだ (自己受容)
- ② 私は、その共同体の一員である (所属感)
- ③ 共同体は私のために役に立っている (信頼感)
- ④ 私は共同体に何か貢献している (貢献感)

という実感であるとしています。

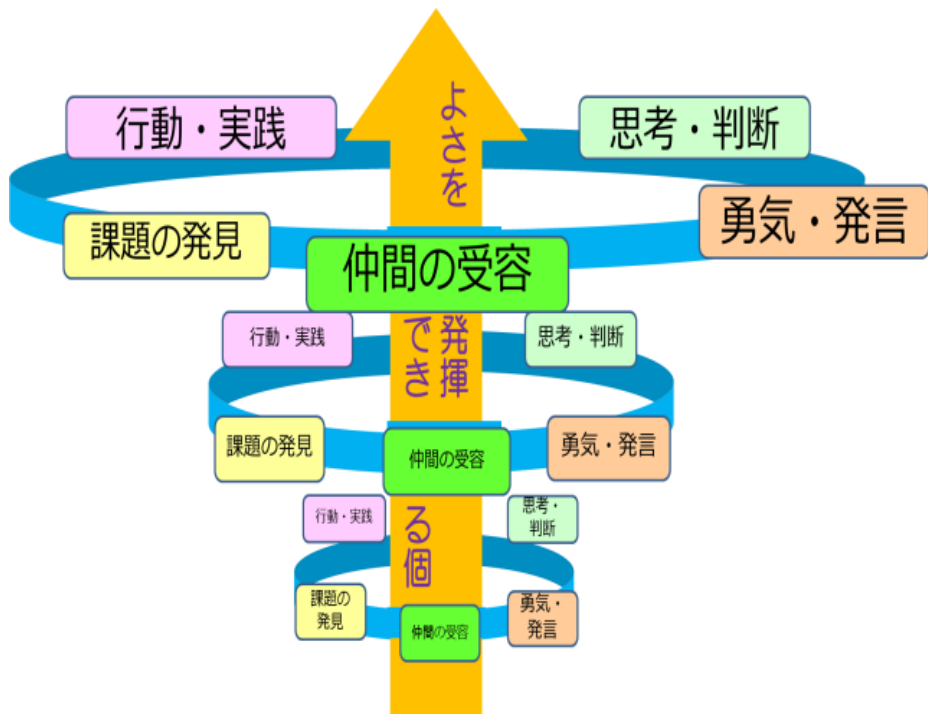
これは、前述の「社会を生き抜く力」の要素として挙げられた「自立・協働・創造」の資質能力を身に付けさせるために経験させたいことに非常に近い関係であることがわかります。こうした点からも指導者や仲間による「勇気づけ」の関わり、「共同体感覚の育成」は今日の学校に非常に有効であると言えます。



2 クラス会議に期待されること

クラス会議は日常かつ継続的に行うことにより、共同体感覚を高めていけるプログラムです。

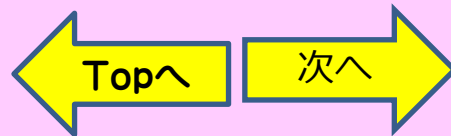
クラス会議の教育的意義 = 集団がチームになる！
チームとは、課題に対して自分たちで協力し解決できる集団です。
 ①互いのちがいを乗り越え、折り合いをつけて意志決定する力
 ②協力して問題解決する力
 ③行動した結果を振り返り修正する力
 ④自分たちの生活向上のために課題を見つけ出す力
 等の能力の育成に役立ちます。



一般的なクラス会議の流れとその目的

活動	目的
輪になる	対等性の自覚 互いの姿が見えるように輪になることで対等であることを意識づける。
サンキューリング	肯定的な感情の交換 / 集団は敵ではない 肯定的な感情に注目させ、温かな雰囲気づくりをする。
前回の解決策の振り返り	自分たちの行動に責任をもつ 前回の話し合いで決めた解決策が課題の解決に有効であったかどうかを確認し、クラス会議の話し合いの成果を自分たちで評価する。
議題の提案	信頼できる仲間に課題を委ねてみる ①提案者 →課題を話すことで自己の内面を伝える。 ②参加者 →課題を理解し、仲間のために全員で考えるという動機づけを図る。
解決アイデアの収集	仲間のために自分ができていることを考える 提案者の課題に対して自分なりの解決のアイデアを出し、お互いが支え合い、思いやりをもつことよさを体験的に学ぶ。
質疑応答	結果を予測し、妥当性を検討する 出された解決のアイデアに対して、課題の解決に向けて気になること、心配なことを出し合うことで結果を予測させる。
解決策の決定	仲間のアイデアを課題解決に生かす 個人や集団の課題について、解決に向けて有効な手立てを選択し、実行することを決めることで、責任をもって行動できるようにする。
話し合いの振り返り	協力できたか、自己を見つめる 話し合いを振り返ることで、仲間の課題に対して、真摯に取り組めたかを自己評価する。
実践	話し合ったことは守る 実際に取り組むことを周知し、実践していくことを通して、話し合いにおける責任をもたせる。

2 クラス会議に期待されること



学級の実態を観察してみましょう

クラス会議に期待される効果は、大きく2つ考えられます。

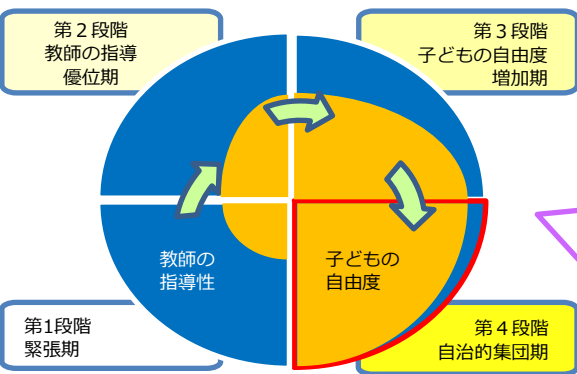
- ①子ども一人ひとりが、集団、ひいてはより大きな集団（学校、地域、社会など）に対して、適切に肯定的感覚をもてるようにするという、個人の意識を高める効果（→ ショートver.で主に効果が期待できます。）
- ②同時に、クラス会議を全員で取り組み、試行錯誤しながら、生活が向上していく経験を通して、学級などの集団の機能が向上していく効果（→ ロングver.で主に効果が期待できます。）

この期待される2つの効果は独立したものではなく、相互に作用し合いながら伸びていくものと考えられます。集団の質の向上なくして、個人の意識の変容は期待ができません。

ここでは、学級の機能を4段階に分け、成熟した集団といえる「自主的集団期」までの道筋と、教師の基本的な指導の目安をご紹介します。

みなさんの担当されている学級は、何段階にあるのでしょうか。

この段階を把握することでクラス会議を行う際に、教師の介入レベルの参考になります。



まずは、教師の積極的な指導で安心できる学級風土をつくります。その後、段階的に直接的な指導を減らしていき、子どもの自由度を増やしていきます。最終的には、自分たちのことを自分たちで考え、相談し、解決していけるようになります。

クラス会議を中核にして、集団を育てる過程をとおして、集団との調和を図りつつ、自分の力を発揮できる個を育てる。

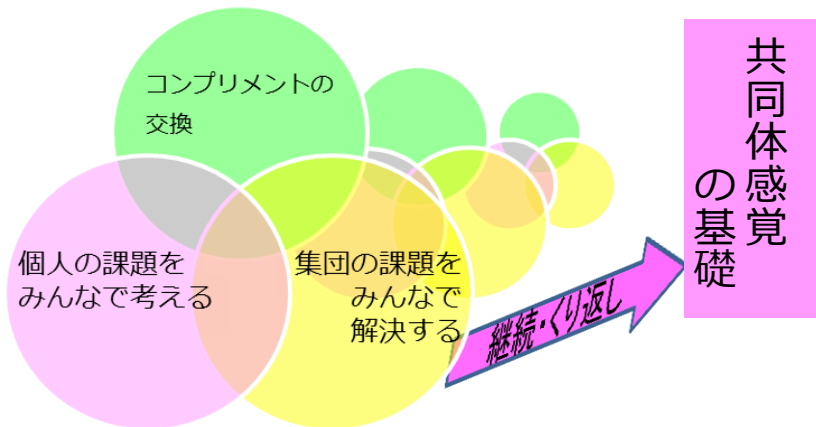
集団の質を4段階で表すと・・・

段階	状態	次の段階への目標
緊張期 第1段階	集団における人間関係を構築していないため子どもが緊張状態にある。指導も入りにくい状態。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不安を抱かずに生活できるように、基本的なルール、システムが理解できるようにする。 ◆ 教師が積極的に関わり、信頼できる存在であると感じられるようにする。
教師の指導優位期 第2段階	担任に対する信頼感をもち、授業に集中できるようになる。 反面、教師の指示無しでは動くことができない状態。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子ども達が互いに信頼できるようにする。 ◆ 一斉授業で、子どもと教師が双方向的なコミュニケーションをとって学習を進めることができるようにして、自信をつける。
子どもの自由度増加期 第3段階	ペアやグループ活動を経験して、協力して課題解決する意義を理解できている。 一方、自分達なりに行動をし始めるが、教師の評価のために行動している状態。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ペア・グループ学習や協力して行う活動に取り組み、子ども同士がつながる楽しさを意識することができるようにする。 ◆ 係活動など自主的に取り組もうとする姿勢を積極的に認める。活動の目的を意識できるようにする。
自主的集団期 第4段階	集団による課題解決が日常化する。目的意識が明確化するので指示・指導は極めて少なくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分たちの課題以外にも、課題を見つけ、自分たちは何ができるかを考え、実行できるようにする。

クラス会議は子ども達が主体になって進めていくことで効果が期待できます。しかし、「任せる」までに「導く」という視点が必要です。

4 気軽に継続して行うための 2つのクラス会議

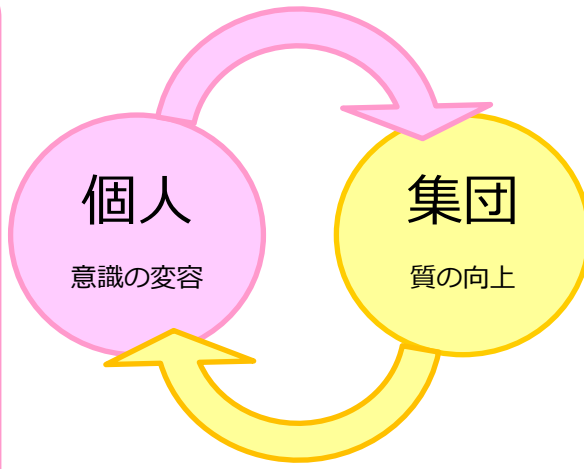
クラス会議には、短時間でできるものと、45分間の授業時間を使って行えるものがあります。どちらにもメリットがあり、そのよさを最大限に引き出すためには、「クラス会議の日常化」が必要である、と考えます。



それぞれの要素が作用しながら、共同体感覚を高める。

図1 クラス会議の要素

- ① 所属集団があるという安心感がある
- ② 仲間のことが信頼できる
- ③ 自分のあるがままを受け入れられる
- ④ 貢献しようとする意欲をもてる など



- ① 意志決定する力
- ② 協力して問題解決する力
- ③ 行動した結果を振り返り修正する力
- ④ 課題を見つけ出す力 など

図2 クラス会議ショートver.ロングver.の相互作用

クラス会議の日常化

クラス会議は、今や多くの実践者が取り組んでいます。その設定時間が15分から45分（50分）と幅があります。それは各実践について、その目的がやや違っているということに起因しているようです。

そこで、比較的短時間で解決策が決められる個人の課題について考える活動をショートver.、全員で話し合い、折り合いをつける必要がある話し合い活動をロングver.と便宜上名前をつけました。

これらをすべて、日常的に継続的に行うにはかなりの負担感がありますが図2のように、ショートver.とロングver.を行うことでより、大きな効果が上がるのではないかと考えました。そこで、クラス会議に見られる要素を抽出して「コンプリメントの交換」「個人の課題をみんなで考える」「集団の課題をみんなで解決する」この3つの要素を1週間の中に配置し、取り組むことでクラス会議の目的が無理なく、学級に浸透していくものと考えました。

図3のように、日課表の中にクラス会議の要素を配置してみたいかでしょうか。

	月	火	水	木	金
朝の会	■	■	■	■	■
1					
2					
集会時間					
中休み					
3			■		
4					
昼休み					
5					
6					
帰りの会	■	■	■	■	■

■ サンキューリング

	月	火	水	木	金
朝の会	■	■	■	■	■
1					
2					
集会時間					
中休み					
3			■		
4					
昼休み					
5					
6					
帰りの会	■	■	■	■	■

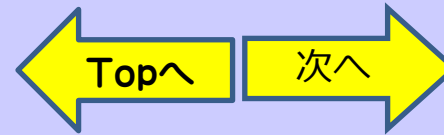
■ ショートver.話し合い

	月	火	水	木	金
朝の会	■	■	■	■	■
1					
2					
集会時間					
中休み					
3			■		
4					
昼休み					
5					
6					
帰りの会	■	■	■	■	■

■ ロングver.話し合い

図3 日課表にちりばめたクラス会議の例

(1) 議題提案用紙



クラス会議 みんなで話し合いたい！！議題を提案します！！

提案する人()

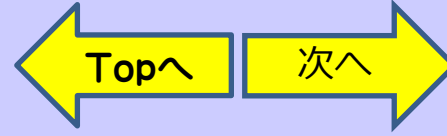
議題の内容に近いものに○をしてね
困っている 悩んでいる 助けてほしい 相談したい アイデアが欲しい
もっとよい学級にしたい 楽しいことをしてみたい

内容

話し合いたい理由

提案した日 月 日 話し合った日 月 日

(2) 解決策揭示用紙



第 〇 回 リンク会議 (月 日) 提案者
議題

解決策

話し合った日 月 日	日	
議題は解決 できましたか?	日	
10点満点中何点?	日	

話し合いのルール

① 話しやすい雰囲気をみんなでつくる。

② 思いやりをもって話す・聞く。

③ 解決策を協力して考える。



(4) 思いやりの八箇条

Topへ

次へ

思いやりの八箇条

- ・ みんな対等
- ・ みんなで協力する
- ・ みんなで話しやすい雰囲気をつくる
- ・ お互いに尊敬し合う
- ・ 話し合いでは責めるのではなく、
解決策を考える意識をもつ
- ・ 自分たちで決めたことは
自分たちで守る
- ・ 物事はいろいろな見方ができる
- ・ 認めらるることでやる気が出る

聞き方の

あ・い・う・え・お


あ い う え お
| | | | |
あ い う え お
| | | | |
あ い う え お

どんな表情でどんな声でどんな反応をすれば、
話すのがハッピーになるかな？


コンプリメントのこうかん

年 名前 _____ から

☆ どのようなことがあった？ (だれが、どんなことをした)



☆ そのときどんなことを思った？



☆ これから自分はどのように思う？





内容	時間	司会者の言葉	先生の注意点
輪になる	1分		「きれいに」「すばやく」「協力して」を意識させて、輪になるよう指示します。
コンプリメントの交換	5分	<p>○コンプリメントの交換を始めます。となりの友だちの「すごいなあ」「ありがとう」と思ったことを発表してください。</p> <p>○発表のルールを守って進めていきましょう。</p>	<p>発表のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方・聞き方 ・その他の子ども達の参加の態度について、事前に周知します。
前回の振り返り	1分	<p>○前回、○○さんの_____という課題の解決策として、_____というアイデアが選ばれました。○○さん、課題は解決できましたか？</p> <p>→ア 解決できていれば、次の課題へ</p> <p>イ 解決できていなければ、もう少し今のアイデアを続けますか？ それとももう一度、みんなと話し合いますか？</p>	前回の振り返りで、もう一度同じ議題で話し合うか、新しい議題にするかを選ばせます。
課題の提案	1分	<p>○それでは、今日の議題の発表です。提案者の□□さん、議題と、提案理由を発表してください。</p> <p>～議題と提案理由を発表する～</p> <p>○議題と提案理由はわかりましたか？ この議題について、協力して考えてもいいですか？</p>	提案者が、何に困っているかをはっきりできるように助言します。
解決のアイデアを集める	6分	<p>○相談タイムは必要ですか？</p> <p>→ア 必要なら、()分相談タイムです。</p> <p>イ 不必要なら、アイデアを発表してください。</p> <p>○それではトーキングスティックを回します。()周します。パス権をつかっても構いません。</p> <p>～トーキングスティックをまわしながら発表～</p> <p>○アイデアがでましたが、その中で、心配な点や気になる点はありませんか？</p>	<p>必要であれば、「ブレインストーミングの約束」「発表のルール」を確認しましょう。</p> <p>あたたかい眼差しで見守ることが基本です。</p> <p>その選択肢を選ぶことでどういうことが起きるか結果を予測させます。</p>
解決策を決める	1分	○それでは、提案者の□□さんに解決のアイデアを選んでもらいます。	個人の課題については提案者自身が自分で選びます。
振り返る	1分	○今日のクラス会議では_____でした。次回のクラス会議も協力して話し合しましょう。	話し合いを振り返ります。自分たちのよかったところ、がんばったところを(副)司会が発表します。